

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「聖ドミニコ」

2021年7月

377号

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

『愛するアマゾン』から

53 わたしたちがたびたび良心を鈍らせてしまうのは、「限りがあり終わりがある世界という現実気づく勇気が、娯楽によってたえず奪われている」(『ラウダート・シ』56)からです。表面的に見るならば、「事態はそれほど深刻に見えませんが、地球は当分今のままありつづけるのかもしれませんが。そうした言い逃れは、現今のライフスタイルと、生産および消費のモデルとを保つためのものです。見ないでこう、重要な決定を先延ばしにしよう、なかったことにしよう——、これが、自己破壊的な悪徳を勢いづかせるために人間がとる方策です」(同59)。

56 神が授けてくださり、わたしたちが時に衰えさせてしまう、美的感覚と観想的感覚とを呼び覚ましましょう。「美しいものに心奪われて立ち止まることを知らない人が、平然とあらゆるものを利用し濫用の対象物として扱ったとしても、驚くにはあたりません」(同215)。その逆に、もしわたしたちが森との交わりに加わるならば、わたしたちの声は森の声とすぐに重なり、祈りへと変わるでしょう。

「古いユーカリの木陰に横たわっていると、わたしたちの光の祈りは永遠の枝葉の歌に浸されます」(Sui Yun『物乞いと王のための歌』2000年)。こうした内なる回心が、わたしたちをアマゾンのために泣き、アマゾンと共に主に向かって叫ぶようにするのです。



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
キリスト教放送局 FEBC のご案内	29
京都	30
通信深読お申込みのご案内	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第四十章 人間は自分のものとして、何一つよい物を持っていない、そして何一つ誇れない

5 神は私の誇り

真の光栄と聖なる歓喜とは、自分ではなくあなたを誇りとし、自分の徳ではなくあなたのみ名に喜び、被造物ではなくあなただけを楽しみとすることです。「私自身ではなく、み名が尊まれますように」(詩編 115・1 参照、私自身ではなく、あなたのみ業が賛美され、その聖なるみ名が祝されますように。そして私には一切、人間の称賛が向けられませんが、ああ主よ、あなただけが、私の光栄、私の喜びです。私はあなたを誇りとし、日々あなたにおいて喜びおどります。「私は、自分の弱さだけを誇りとしましょう」(ニコリント 12・5)。

6 光栄は神にのみ

人々は、互いに授けあう、あの光栄を求めればよいのです。私はただ、「神から来る光栄だけを求めましょう」(ヨハネ 5・14、44 参照)。実に、人間の光栄、地上の名誉、地位などは、あなたの永遠の光栄に比べれば、いずれもおろかな空しいことです。

おお、私の真理、慈悲の神よ、聖なる三位一体よ、あなたにのみ、称賛、名誉、徳、光栄が、世々にありますように。》

第四十一章 地上の名誉をすべて軽んじる

1 主

《子よ、他人が名誉を受けて重い地位につき、自分が人からさげすまれることがあっても落胆するな。あなたの心を、天にある私のほうに上げなさい。そうすれば、この世の人間からの軽蔑を受けても落胆することはないであろう。》

2 子

《主よ、私たちは心の目が閉ざされていて、すぐ虚栄心に迷わされます。自分の内面をよく反省してみると、誰にも不当な扱いを受けなかったと言わなければなりません。あなたに向かって不平を言う理由はないのです。

かえって私は、しばしばあなたに対して罪を犯したのですから、人が私に刃向かうのは、当然なことと言わなければなりません。つまり私は、はずかしめと軽蔑に値する者であり、名誉と光栄とほまれとは、あなたに帰すべきものです。もし私が、人から軽蔑され、見捨てられ、無視されることを好むほどにならないなら、私は心の平和を受けられず、霊的な光もあなたとの一致も得られないでしょう。》

2021 聖ヨセフ年ー7 聖ヨセフ と 預言者エリヤ

信仰のうちに、神の呼びかけに応える人
愛のうちに、与えられた使命・責任を負い、実行する人
そして希望のうちに、謙遜に静かに身を引く人
信仰・希望・愛の対神徳は
聖ヨセフの生き方のうちに確かに表されています。



神の人であったエリヤは、
神をすべての上に置き、
信仰の擁護者として立ち上
がりました。

しかし、彼も多くの試練を
前に自身の弱さと闘わなけ
ればなりません。バアルの預言者たちとの対
決(参照:列王記上 18・20-40)、「わたしは先祖に
まさる者ではありません」と荒れ野で動揺するエリ
ヤ(参照:列王記上 19・4)を思い起こします。
祈る人の魂において、自身の弱さは、勝利や成功
に高揚している時よりも、より貴重なものなのです。

～教皇フランシスコ～



自分の弱さ、小ささの中で神に信頼するとき、
弱さから受ける傷は光の源となるのです。

聖霊の息吹のうちに新しく生まれ変わるには、貧しいながらも神に信頼して、
すべてを委ねなければなりません。

～マリー・エウジェヌ神父～

7月16日はカルメル山の聖母、20日預言者エリヤ、26日聖マ
リアの両親聖ヨアキムと聖アンナの祝日を祝います。行き先は
まだ霧に包まれたような日々ゆえにこそ、「世の終わりまであな
たたちとともにいる」と言われたイエスとかかわりを深めて歩み
続けてまいりましょう・・・

ともに祈りのうちにつながって、

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ



創造主への賛美（44）

九^{のり}里 彰

前回は、テレーズの言葉に秘められているパラドックスから、十字架の神秘について触れ、さらに無一物の状態を「すべてのものからの離脱」と「自分自身からの離脱」という二種の離脱として説いた。

離脱を二種に分けたわけであるが、本来両者は一つのもので分けることはできないとも言える。というのも、何かに執着しているとき、そこから離れることは、その何かに執着している自分自身から離れることだからである。これは、煙草であれお酒であれ、自分が愛着しているものから自由となるには、並々ならぬ努力と強い克己心が求められることから明らかであろう。

逆に自分自身への執着から離れることは、自分が執着している一切のものへの執着から離れることである。これは、なかなか見えにくい。一見、すべてのものへの執着から離れているように見えても、実際は何らかのものごとに執着しているということがしばしば起きるからである。目に見えるものからの離脱は分かりやすいが、目に見えないものからの離脱、たとえば、名声や評判、地位や権力といったものへの執着は、本人が言葉で否定していても、本人にも意識できない次元でしっかりと、彼あるいは彼女の意識の底に居座っている場合がよくあるからである。この場合は、本人にはまったく見えなく、かえって他者の方がよく見えるという事態となる。しかし、これもきわめて微妙である。何らかのものへの執着、文化や人種等の優越心は、本人にも他者にも見えない、要するに人間の目にはほとんど気づかれない仕方で、存在するからである。

このような意味で、十字架の聖ヨハネがその著作の中で、「暗夜」を二種に分けた理由が見えてくる。自分に意識できる執着からの離脱は、「能動的暗夜」の話であり、自分に意識できない（さらには他者にも気づかれない）執着からの離脱は、「受動的暗夜」の話となる。

いずれにせよ、イエス御自身の言葉が思い起こされる。

私の後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。（マルコ 8・34-35）
(続く)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (159)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

私たちが訪ねるとのことです⑥

(カルモナの) 旅籠に着いた時、豪華な馬車で旅をしている紳士に出会いました。彼はくだんの修道士たちを見て、とても喜びました。修道士たちが旅でかなり疲れていたため、彼は彼らにその馬車を贈り、セビリャに行く馬を貸してくれました。彼はレアル銀貨 11 枚を 8 人各自にとこの証人にくれました。こうして、くだんの修練者たちと共に、この証人はセビリャの修道院に着きました。そしてそこから、コルドバへもどりました。コルドバには、言われた通り余ったお金、レアル銀貨 300 枚以上をもって入りました。セビリャの院長と学院長のもとにはレアル銀貨 300 枚以上が集まったからです。

旅がどのように進展したかを聖なるヨハネ修士に報告し、お金は余って持ち帰ることになったと言った時、彼はそれを会計係に渡すようにと言い、本証人に、たくさんのお金ではなく、より聖なる者となって帰ってきてほしかったと、答えました。そしてもし旅路で願わなかったならば、お金を持って来なかつたらうと。そこでこの証人は、何も願わなかったが、人々が施しで、あるいは自由意志で、これらのお金をくれたことを認めました。以上のことは、私たちの主である神に対して聖なるヨハネ修道士が持っていた大きな信頼のお陰であり、この証人も彼のお陰であると考えます」。

十字架のヨハネのこのような確固とした対神的態度の側面は、彼と共に生活した人々の注意を引いたように、私たちの注意をも引きまします。

ヨハネ・エヴァンヘリスタは、すでに語ったこととは別に、次のように証言しています。「彼は、修道者たちの生活費に関して、神の憐れみにまったく信頼し、すべてを委ねていました。こうして、修道者たちがどのような形であれ、施しを求めて外出すること望みませんでした。むしろいつもこういうのが常でした。『私たちは神に仕え、なさなければならぬことをなさなくてはならない。このようにして、約束したことを行なうことによって、神への義務をはたすべきである』と。こうしばしば言っていましたが、修道士が何もしないのに、何も不足しませんでした。自分のことにかまわないうでいると、神がほんとうに助けに来てくれました」。

(P. 九里訳)

年間 第14主日

(マルコ6:1-6)

本日の福音は、イエスを預言者として示し、預言者や神の使いたちが人々からどれほど拒絶されたかを説明しています。このことは、人々の自己中心さ、神への信仰のなさ、正義や憐れみにかけていること、罪深さからきています。

イエスの教えに対する会堂での人々の最初の反応は驚きでした。彼らはお互いに言いあいました。「この人はこのようなことをどこから得たのだろう？この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何だろうか？」。彼らはイエスが貧しい家を出で、モーセの律法について正式の訓練は何も受けていない大工にすぎないと思っていました。「大工の息子」であるイエスが聖書の解説に優れているとは思ってもよらないことでした。彼らは更に、大工の息子のこのような人がローマの法律から自分たちを解放してくれるメシアであるとは理解できませんでした。彼らは、イエスが特別な家系にないことでも反対しました。イエスは「ヨセフの息子」であるということよりも、むしろ「マリアの息子」であるということによって認められています。そのような言及は、誰がその人の父親であるかということによって認められる文化では、侮辱とみられたでしょう。「預言者が敬われないのは、自分の故郷においてだけである」とイエスは言われました。この福音の言葉は、神の呼びかけを受け入れ、神に従うように求める人が、反対や迫害、侮辱、拒絶、無視、憎しみ、軽蔑、等々に出会うであろうという重要なメッセージを私たちに与えています。

本日の福音の言葉の光に照らして、自分自身を考えてみましょう。自分の先入観によってどれほどたびたび神の使いを批判したことでしょうか？自分の心の冷たさによってどれほどたびたび神の使いの中に神のイメージを見損なったことでしょうか？ 私たちは、力のない者や弱い者たちを通して神の力が示されることを常に悟らねばなりません。神の恵みは最も弱い、傷つきやすい人さえも変えるように働きます。

神は、私たちが洗礼の秘跡によってイエスのように預言者となり、イエスの預言者的使命を分かち持つように呼んでおられます。私たちはどんな拒絶も恐れはなりません。拒絶には預言者的勇気と楽観主義をもって立ち向かうべきです。他者に対して怒りや敵意を持つことなく、正しい精神をもって拒絶に対処する必要があります。全ての拒絶は、向上と善への新たな可能性と機会に向かう教訓となり得るのです。

(Sr. Paulina)

年間 第15主日

(マルコ6：7-13)

今日のみことばですが、イエスが故郷のナザレにお帰りになって人々の不信仰により何も奇跡を行うことがおできにならなかった後、付近の村を巡り歩いて教えられた際の出来事になります。イエスは十二人の弟子たちを呼び寄せて、2人づつ組にして宣教に遣わすことにされ、弟子たちに具体的な細かな指示をなさいました。

神の国が近づき、神の支配が私たちのところに来ているのを具体的に証しするため、まずは弟子たちに汚れた霊に対する権能を授けられ、そして次いで神に信頼すること、全てを神に委ねて歩むことを弟子たちが体験し証しするため、様々なことを仰いました。初めに、旅には杖1本のほか何も持たない様にと。杖は外敵から身を護るためであり、歩く際の支えです。そしてパンも袋も持たず、帯の中には金も持たない様にと。全てを神に信頼して、神の計らいに身を委ねながら歩む様にとされたのですね。

そしてどこでもある家に入ったら、すなわちどこかの町や村の中である家に入ったら、その土地から旅立つ時まで、その家にとどまりなさいと言われます。あちこちの家や人、もてなしの仕方に目や気や心を奪われてしまうのではなく、ひと所で腰を落ち着けて、心を落ち着けて、宣教を行う様に配慮されました。

もしも迎え入れられず、耳を傾けようとしめない所があったら、足の裏の埃を払い落としなさい、あなたがたとはもはや何の関わりもない、異邦人と同じ様に見做すという強いメッセージを十二人が残してそこを出ていくようになさいました。

その様なイエスからの指示を受けた十二人ですが、出かけて行って、人々を悔い改めさせるために、宣教したと記されています。具体的な事柄は書かれてはおりませんが、多くの悪霊を追い出して、油を塗って多くの病人をいやしたとありますので、十二人を通して神の力が働いている、神の支配、神の国が始まっているということをおそらく十二人が訪れた町や村の人々は、目の当たりにし、悔い改めた人も多かったのではないのでしょうか。

クリスチャン、神の子とされた私たち。神への信頼のうちに、神とともに歩むことができます様に。私たちの日々の歩みが、宣教の歩みとなります様に。

(Fr. 古川利雅)

年間 第16主日 (B)

(マルコ6 : 30 - 34)

大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れまれました。

本日の朗読箇所は、福音書の中で最も温かくて心に響く箇所の一つです。ここでは、イエスと使徒たちは疲れ切って、群衆から離れて休息を取ろうとしました。しかし群衆たちは先回りして彼らが到着した場所で既に待ち構えていました。するとイエスは、飼い主のいない羊のように途方に暮れた群衆全員を深く憐れまれたのでした。

聖書は、神が、一人ひとりをいつくしみと愛情込めて世話してくださることを思い出させてくれます。神は、愛に満ちた創造主・保護者として、私たちの人生を導いてくださいます。イエスには、羊を肩にかつぐよき羊飼いとしての姿もあります。このイエスの姿には、私たちの生涯にわたって、特に困難や問題に直面した時に、私たちの面倒を見て支えてくださるイエスのいつくしみと温かさが示されています。

イエスは、宣教活動から戻った使徒たちに対し、「あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と呼びかけます。これは、自分たちの経験を静かに振り返って祈る時間を確保することです。大変な宣教活動には、力を充電するための完全休養が必要です。神のみことばであるよい知らせを教え、特に苦しむ教会の一員に言葉と行いで奉仕する、という神からの使命を完遂するためには神の力と霊が不可欠です。

私たちが正しい道に導く実行力と責任感を持ち、かつ、いつくしみ深い羊飼いたちが与えられるよう、私たちは教会のために祈る必要があります。羊飼いと、他者の人生を導く責任を持つ指導者、親、教師その他も指します。現在の新型コロナウイルス感染症のパンデミックの最中において、祈りと犠牲を通してお互いのために祈り、支えあっていきましょう。私たちは一人残らず、私たちの主にならってよき羊飼いとなり、私たちの使命の中で主を証することに招かれています。

(Sr. Paulina)

年間 第17主日

(ヨハネ6：1－15)

イエスはガリラヤ湖のほとりで五千人以上もの群衆にパンを与え、彼らの空腹を満たされました。イエスは初めから「御自分では何をしようとしているか知っておられ」ました。イエスには神の力があり、たびたび奇跡をとおして神の憐れみを示されました。しかし、この場面ではご自分一人で奇跡を起こそうとはせず、弟子たちの奉仕を通してその力を表されました。

二百デナリオン（当時の二百日分の日当）でも足りないほどのパンが必要な状況の中で、アンデレはイエスに進言しました。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」。

ダメだと分かっているながらも、アンデレはイエスに「こういう人がいます。こういう物があります」と言って、イエスに差し出したのです。イエスは、このわずかなものを手に取り、感謝の祈りを唱えてから、弟子たちに配らせたのでした。すると、すべての人に行きわたり、残ったパンが十二の籠いっぱいになったというのです。

この奇跡は、わずかなものでもイエスに差し出すことによって、何かが変わることを教えてくれています。私たちの持ち物も、能力も、大勢の人を助けられるほどのものではないでしょう。自分のことで精いっぱいという人も多くいることでしょう。しかし、そこでイエスに聞き、イエスの望みに心を合わせ、持っているものをイエスの手に差し出すとき、イエスはそれを取って祈り、感謝し、良いものに変え、それを通して働かれるのです。イエスは私たちの小さな奉げものを用いてくださいます。もし私たちが、惜しみなく奉げるならば、イエスはそれを用いて働いてくださるのです。

ミサは、毎日曜日に、一人ひとりが自分のすべてをイエス様の手に差し出す時です。本当に皆が心から差し出すなら、イエスの望んだ、すべての人が満たされる状況へと私たちの身のまわりは変化していくはずですが、価値観の転換が必要です。イエスのために生きるのか。福音のために生きるのか。それとも、自分のためだけに生きるのか。

一人ひとりが福音に目覚め、自分自身と、その小さなささげものをイエスの手にゆだね、この社会が神の国に近づいて行きますように祈らずにはられません。

(今泉健 神父)

いのちの言葉 7月

娘よ、あなたの信仰があなたを救った。

(マタイ9. 22)

群衆に取り囲まれながらイエスが道を進んでいくと、絶望した父親が死にかけている幼い娘を助けてほしいと懇願し、イエスは父親について行かれます。その道すがら、イエスは、12年間も出血を患っている一人の女性と出会います。この病氣ゆえに、彼女は親戚から疎まれ、周りの社会からも見放され、病状は悪化するばかりでした。群衆のなかにあって、彼女は、イエスと呼ぶことも話しかけることもせず、背後からイエスに近寄り、その服の房にそっと触れます。「イエスの服に触れさえすれば、この病氣の苦しみから癒される」と彼女は固く信じたからです。

そして、その通りになりました。イエスは振り返り、彼女を見つめ、「娘よ、安心しなさい。あなたの信仰があなたを救った」とおっしゃいました。体の健康だけではなく、イエスのまなざしを通して、彼女は、神様の愛と出会いました。

娘よ、あなたの信仰があなたを救った。

このマタイ福音書のエピソードは、予期せぬことに私たちの目を開かせてくれます。それは、神は常に私たちに向かって歩んで来られますが、この神との「約束の時」を逃さない為には、私たちの側からのイニシアティブが必要だと、分からせてくれるからです。私たちの信仰の旅路は多くの過ち、弱さ、挫折の道のりであるにせよ、そこには大きな価値があります。「真(まこと)のいのちの主」である神は、その息子や娘である私たちすべてと「神聖な生命(いのち)」を共有したいとお望みだからです。たとえ、私たちがどのような状況にあったとしても、神の目から見ると、私たち一人ひとりには、決して損なうことのできない尊厳が備わっているからです。だからこそ、イエスは、今日、私たちにも次のようにおっしゃいます。

娘よ、あなたの信仰があなたを救った。

今月のみ言葉を生きる助けとして、キアラ・ルービックは記しています。「人は信仰において、自分を頼りにせず、自分よりも強いお方にすべてを委ねる姿勢を、はっきりと示します。…イエスは、病氣がいやされた女性に向かって、『娘よ』と言われましたが、それはイエスが、彼女に一番与えたかったことを表しています。すなわち、病氣が治ることのみならず、イエスは、彼女の存在すべてを新たに「神聖な生命(いのち)」を、彼女にお与えになりたかったのです。イエスがこのような奇跡を行われたのは、ご自分もたらす救いと許し、御父の賜物を人々が受け入れるように

なるためでした。この賜物とは、イエスご自身のことであり、イエスは人々にご自身を与えながら、彼らを変えていきました。…

では、このみ言葉をどのように生きることができるでしょうか？ どんなに困難な状況にあっても、神様に全(まった)き信頼を置きましょう。それは、自分の責任を果たさなくてもいいとか、自分にできることをやらなくてもいい、ということではありません。…又それは、私たちの信仰が試される時でもあります。病気で苦しんでいたこの女性の場合にも見られることですが、彼女は、自分とイエスとを隔てる群衆を必死の思いでかき分け、やっとイエスのもとにたどり着きました。…ですから、試練に出会っても揺るぐことのない、このような信仰が私たちにも求められるでしょう。そして、イエスが与えて下さった「神聖な生命(いのち)」という賜物が、どれほどかけがえのない素晴らしいものであるかを、私たちも自らの経験としてイエスに証し、イエスに感謝し、その恵みにいつも応えるよう努めましょう。」¹

娘よ、あなたの信仰があなたを救った。

このような確信さえあれば、私たちも、苦しむ人、困窮する人、希望を失い途方にくれている人にやさしく「触れ」ることで、救いをもたらすことが可能ではないでしょうか。

ここで、ご紹介するのは、許す勇気を見出したベネズエラのある母親の体験です。彼女は語ります。「助けて欲しいという藁をも掴む思いで、私は、聖書の集まりに参加し、そこで『平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる』² 『あなたの敵を愛しなさい』³ というイエスのみ言葉を耳にしました。その時私は、『息子を殺した犯人をどうやって許せと言うの？』と、思いました。しかし、イエスのみ言葉は種のように私のうちに忍び込み、とうとう、許そうという思いがうち勝ちました。今、私は、本当に自分は「神の娘」だと感じています。

ごく最近のことですが、息子を殺した犯人が逮捕され、彼と対面するよう私は呼ばれました。非常に辛い瞬間でした。でも、神様からのお恵みのお蔭で憎悪は消え去り、私の心には、ただ神の深い憐みに彼を委ねたいという思いだけがありました。」

娘よ、あなたの信仰があなたを救った。

レティツィア・マグリ

¹ キアラ・ルービック、1997年7月のいのちの言葉

² マタイ 5,9 参照

³ ルカ、6,35 参照

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

◀ Communications (時事通信) ▶

2021年6月14日

アフリカのフランス語圏の女子跣足カルメル修道会連盟が コンゴ民主共和国首都キンシャサで代表者会議開催



アフリカのフランス語圏の女子跣足カルメル修道会連盟の代表者会議が、2021年5月3日～5月20日までキンシャサで開催されました。この連盟は、カメルーン、ブルンジ、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、象牙海岸、ルワンダ、の6ヶ国の11の修道院で構成されています。21名の修道女たちはあらゆる障害をものともせず旅することができましたが、カメルーンのギテガ修道院とブルンジからは国外旅行規制のため参加できませんでした。

役員改選の選挙においては、カメルーンのグラン バッサム カルメル修道院のシスター聖霊のアテナイが会長に再選され2期目の向こう3年間を担うことになりました。そして第一顧問はルワンダのキガリ修道院のシスター十字架のエイミー、第二顧問はコンゴ民主共和国のルブンバシ修道院のシスターイエスのテレーズ、第三顧問はカメルーンのヤウンデー修道院のシスターイエスのアイリーン、会計担当はコンゴ民主共和国のカナンガ修道院のシスター幼きイエスのマリークレメンティヌ、第四顧問はルワンダのシアング修道院のシスター善き牧者のクラヴェルが代理として其々選出されました。

跣足カルメル修道会総長のサヴェリオ カニストラ神父と総長代理のベルガラ神父は、5月4日の夕方現地に着きました。総長は、“神の御顔を探し求める御業のうちに、新しい指導体制の光における女子跣足カルメル修道会修道女の養成”の講話をされ、出席者のシスター達の質問に応えられました。この集会中にシスターたちは自分たちの養成要綱を照合しながら共に養成について考察することができました。

総長代理がローマに帰国される前夜に、食事行事担当の修道士とシスターたちは総長に敬意を表しての祝賀会を企画し、参加者たちは各国の料理、歌、ダンスを披露しました。

総長の出発後はベルガラ神父が1週間代表者会議にとどまり、教導権の最近の公文書をはじめとするカルメルの霊性による実際上の観想修道生活について講習会を行いました。現在、各女子跣足カルメル修道院の共同体が直面している課題では多くの質疑が上がり、活発な話し合いがなされました。

またシスター達はこの間に、キンシャサの大司教フリドリッ アンボンゴ枢機卿の兄弟的な親しいご訪問を受け、喜びで満たされました。枢機卿はご自分の大司教区のニュースをシスターたちに話され、観想修道者への召命の素晴らしさをくり返し告げられました。(小宮山延子訳)

糸巻き棒からペンへ(66)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

このことの意味を理解するには、交通路が古いローマ時代の石畳の道のままで、修復も補修もされずに使用されていたので、1500年後にはとてもいたんでいたということを感じ起こすべきでしょう。夏にはほこりが舞い上がる悪路となり、冬の間は、ぬかるみのため通行不能の道へと変わったからです。川を渡る橋はほとんど存在せず、そのためにはしけ舟（これも十分ではありませんでした）で川を渡っていました。宿屋も数多くなく、その時代のすべての物語は、宿の中が汚れており、換気が悪く、寝台もなく、わらの間にはのみしらみが一杯で、旅が快適ではなかったということを強調する点で一致しています。それゆえ、テレジアとその連れの人たちは、普通、街道にある教会の床に寝ました。他の可能性が残っていない場合のみ、宿屋を使用しました。さらに、食事のサービスはまったくありませんでした（その時代を再現する映画は歴史的事実に反しています）。

聖女自身が、旅において食べ物を見つけることの困難を物語っています。たとえば、ベアスからセビリャへの旅では、何日か、宿屋の主人や農民から食べ物を買うことがまったくできませんでした。ブルゴスからアルバ・デ・トルメスへの最後の旅では、手に入ったのは、わずかな干しいちじくだけでした。聖ヨセフのマリアは、このことに関する証言を書き物として残してくれました。「多くの日々、私たちの手に入ったのはそら豆だけでした。あるいはパンが少し。あるいはサクランボが少し。あるいは何かそのたぐいのものでした。私たちの母さまに卵一個見つけたならば、それは大したことでした」。

けれども、主な困難は、著作活動と同じように、女性の社会的地位でした。すでに述べたように、その当時まで、すべての女子修道会は、男性によって創立されていました。ヌルシアの聖ベネディクトは女子ベネディクト会を、聖ドミニコ・デ・グスマンは女子ドミニコ会を、アシジの聖フランシスコはクララ会を創立しました。一つの修道院あるいは一つの病院を創立するために必要な財を持ち、そこに隠遁し病人に奉仕しようとしていた女性の場合でさえも、必要な手続きを行なうのは男性の仕事でした。たとえば、寡婦となった後のポルトガルの聖エリザベトやハンガリーの聖エリザベトといった王妃たちのように。（続く）

(P.九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2020年 冬号 No.379

《現代に生きる祈りの伝統》**

桐生聖クララ会—新しい修道会、新しい生活
シスター・マリア・イルミナータ

信仰生活(再)入門(12) 聖書に学ぶ祈りの道(4)
—現代のための神のみことば、テレーズとともに②

片山はるひ
道の霊性(4)—幼い者の隠れた道 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(12)
—クリスマスの歎び 伊従信子

クリスマスメッセージ 二〇二〇
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(12) 九里 彰

霊的研究会講義録(10)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に
松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」
九里 彰

司牧者のかがみ 教皇フランシスコ
今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光
—寄留者の尊厳
大瀬高司

◆ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

※2021年度より料金が変わります(1冊 580円 年間購読 3,600円)

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

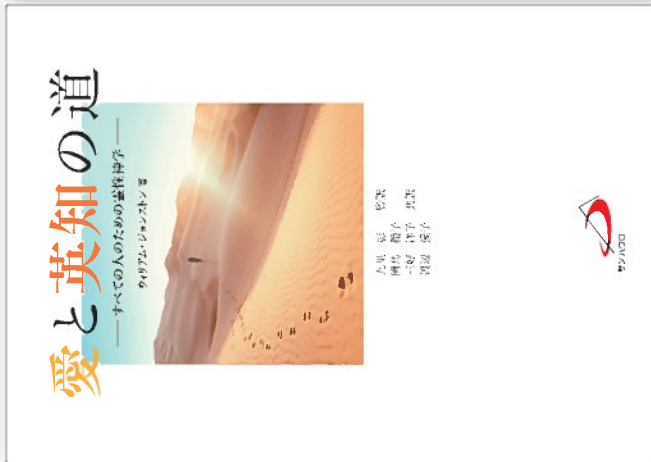
カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5

Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

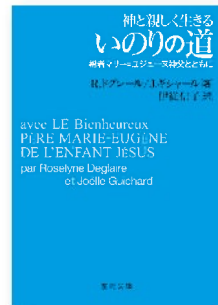
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

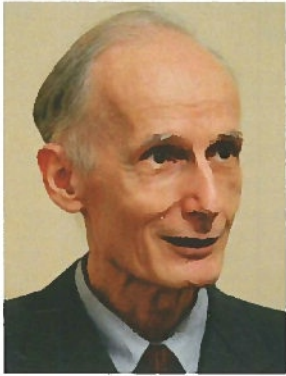
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神聖を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

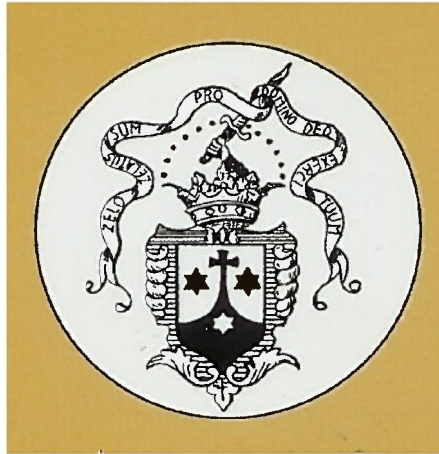
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)** **
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

7月 3日(土)~ 4日(日) 2022年

8月28日(土)~29日(日) 1月 8日(土)~ 9日(日)

10月 2日(土)~ 3日(日) 3月12日(土)~13日(日)

11月27日(土)~28日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

7月21日 9月22日

10月20日 11月17日 12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

7月24日(土)~25日(日) 2022年

9月25日(土)~26日(日) 1月29日(土)~30日(日)

11月20日(土)~21日(日) 3月19日(土)~20日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

8月 1日(日)~10日(火)

8月16日(月)~25日(水)

12月27日(月)~1月 5日(水)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

2022年 3月25日(金)~27日(日)

- ・ 召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
11月 5日(金)～7日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日16時～日曜日16時)カルメル会士
10月 9日(土)～10日(日) 2022年
12月11日(土)～12日(日) 2月26日(土)～27日(日)
- ・ 特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月12日(金)～14日(日)
- ・ キリスト教霊性入門(10時～16時 昼食付) 松田浩一神父
7月8日(木)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

キリスト教放送局

FEBBC

2021.4~2021.9

2021年春夏 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

日

夜9:30~

全地よ主を ほめたたえよ

主日礼拝取材番組

[第1]

日キ教会 高知旭教会

[第2]

日基教団 石動教会

※4~6月

[第3]日基教団 久万教会

[第4]日基教団 小岩教会

・7~9月

[第3]ホーリーネス教団

東京中央教会

[第4]日基教団

中標津伝道所

[第5]各地の教会

[第2~5]夜10:27~

神からの

メッセージ

グレゴリオ聖歌

橋本周子

聖グレゴリオの家

宗教音楽研究所 所長

月

[月~金]夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBBCメインパーソナリティー

吉崎恵子

新 夜9:48~

聴く信仰

「いのち」をいただく

御言葉黙想

山内十束

物心ツツク・御受難修道会

宣教師の家の司祭

夜10:14~

Echo of

Voices

長倉崇宣

夜10:28~

御足の跡を

小池与之祐

日基教団 神の愛

キリスト伝道所 牧師

火

夜9:47~

嘆きに応える

神の御言

金田聖治

日キ教会

上田教会 牧師

夜10:14~

主に向かって

歌おう

飯靖子

日基教団 霊南坂教会

聖歌隊指揮者・オルガンリスト

夜10:28~

新 ふらっと

トーク

中川信一

長倉崇宣

水

夜9:47~

Session

一イエスのTune

合わせて

早矢仕宗伯

「NCAM-イエスの風」牧師

塩谷達也

ゴスペル

長倉崇宣

シンガー

夜10:14~

光、イイス

というお方

(再)

ゲオルギイ

松島雄一

日基教団 大坂/リストス

証教会 賛美司祭

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄

RCIメディア

ミニストリー 代表

木

[第1]夜9:37~

イエスとの

対話の旅

一現代霊性神学講座

中川博道

カトリック、

カルメル会 宇治修道院 司祭

[第1]夜10:25~

外からの「声」

一FEBBC HANGOUT!

新 [第2]夜9:47~

FEBC

アークライブ

[第3-4]夜9:37~

新 生きるとは、

キリスト

小林和夫

ホーリーネス

東京聖書学院 教会 牧師

[第3-4]夜10:20~

Meguの

CCM insight

土

夜9:30~

海二と恵子の

ピタミンK(再)

大竹海二

日本長老教会

中部中会 巡回 牧師

吉崎恵子

夜9:53~

Kishikoの

ひとりじゃ

ないから

[第1~3]夜10:04~

コーヒー

ブレイク・

インタビュー

インタビュー

吉崎恵子・長倉崇宣

[第4-5]夜10:04~

交わりのことば

一祈りの旅路

夜10:31~

黙想のとき(再)

主よ、共に宿りませ

安保ふみ江



宇治カルメル会 黙想会案内 (2021 年度)

7月より黙想会を再開する予定ですが、
今後も状況により変更される場合があります。

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

7/17～18 9/18～19 10/30～31

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

7/24 9/4

10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】 (第3水曜日) (午前10時～午後4時)

7/21 9/15 10/20 11/17 12/15

(7/21 11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ)

他すべて 中川博道神父

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/2 (土)～3 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/11 (土)～12 (日)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

7/29 (木)～8/7 (土) 中川博道神父

9/20 (月)～29 (水) 中川博道神父

11/8 (月)～17 (水) 中川博道神父

12/27 (月)～1/5 (水) 中川博道神父

【待降節黙想会】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

12/4 (土)～5 (日)

【祭日のミサに参加するために】

*＜聖週間を祈る＞

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*＜クリスマス＞

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたしますー

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

* * *

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいませければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
宝塚 I & アドバンス	7/22(木)17:30- 25(日)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院(宝塚市)	西村優子 090-8480-2661 野 真理子 090-6758-3369
名古屋入門 C	8月/1(日)9:30- 17:00 *6/2開催予定分が 変更されました	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
札幌 フォローアップ	8/26(木)9:30- 27(金)18:00	Fr植栗	詳細は申込担当ま でお問合せください	本間攝子 080-3260-1864 本間不在時は山崎有紀 090-4720-2157
札幌 I & アドバンス	8/28(土)9:30- 29(日)18:00	Fr植栗	同上	同上
妙高 I & アドバンス	9/3(金)9:00- 5(日)17:00 前泊可	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	佐藤範子 080-3145-3646
フォローアップ 新 I	9/5(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 ・ミサはありません。 ・椅子での黙想です	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ	9/12(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★会場が変更になる可能性があります。

- 入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

*「祈りの集い」のスタッフの一人、山藤誠司さんがご病気になられました。
主キリストが彼の心と体を支えてくださるよう、みなさまのお祈りをお願いいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

ワクチン接種が急速に動き出し、「オリンピックムード」が醸成され、なんとなく安堵感が漂う中、教皇フランシスコが昨年 3 月 27 日、新型コロナ感染第一波の不安の只中にあった世界中の人々のために祈り、語り掛けられた福音が、年間第 12 主日のミサの福音として再び響きました。あの日、サンピエトロ広場は雨に包まれ、救急車のサイレンが鳴り響いていました。

「その日の夕方になって、イエスは『向こう岸に渡ろう』と弟子たちに言われ、漕ぎだした舟が、突風に見舞われ、今にも沈みそうになって、弟子たちが右往左往する中、「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」と力強く呼びかけるイエスがいます。

私たちはあの日以来、教皇の確信に満ちた呼びかけに従って、このパンデミック（地球上のすべての人に及ぶ禍）は、神からの罰ではなく、人類そのものが立ち止まって、私たちの在り方を見直す時と捉えようとしてきたように思います。そして、Covid19 以上に危険な利己心にむしばまれている私たち人類の在り方によって、皆がともに暮らす家が著しく傷つけられていることを理解するために、事実への率直な視線だけではどうしても必要であることを痛感してきました。

「向こう岸に渡ろう」の呼びかけは、人類そのものの危機を脱するための、おそらく私たちが見たこともない新しい世界への招きなのだと思います。

ノーベル化学賞受賞者パウル・クルツェンは、今の地球の時代を、人間たちの活動の痕跡が、地球の表面を覆いつくした時代という意味で、地質学的に見て、地球は新たな時代に突入したことを表す「人新世（ひとしんせい）」と名付けました（参照：斎藤幸平著『人新世の資本論』2021 年）。

環境は人の心から生まれてくるものと言われた教皇のことばを裏付けることとして受け止めています。実に、私たちの心の在り方が、私たちの選択が、地球の運命を決める時代をわたしたちは生きています。神との、隣人との、そして大地とのかかわりの見直しと、イエスと共にこの関係性をどう生きるのか、私たちの「霊性」が問われています。

上掲した著書の中で、「三・五％」の人々が非暴力的な方法で、本気で立ち上がると、社会は大きく変わる、という研究結果を紹介しています。

現在地球上には 12 億 4000 万人余りのカトリック信者がいます。それは実に世界人口の 15.8％にあたります。あらためて私たちの本気度が試されています。

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

